

第3回アクティブ・ラーニング研修会実施報告

日 時 平成29年11月27日（火）

場 所 多治見高校 桔梗会館

参加者 本校職員37名、大垣南高校・中津高校より合計4名の先生

講 師 コアネット総合教育研究所 所長 松原和之先生

演 題 「教科ルーブリックの作成に向けて」

講義内容

1 ルーブリックの必要性

(1) 世の中で必要な力の変化・これからの大学入試で求められる力

従来は、大学入試で必要な力・大学で育てる力・社会で必要な力はそれほど重なり合うことなく個別に求められてきた。しかし昨今ではこれらの重なりを大きくさせていこうという流れがあり、大学入試において社会で必要な力を、大学で育てる力として社会で必要な力を育成することが求められるようになってきている。そしてさらに社会で必要な力自体も形を変えつつある。

大学入試では思考力・判断力(情報の精査・解釈—情報の編集・操作—自分の考えとの統合・構造化)と、表現力(記述・小論文、プレゼンテーション、面接、ディスカッション)が求められてきている。

(2) プレゼンテーション力の到達目標の段階・2つの学習の成果

大学入試で求められる力を得るために、高校3年間で生徒に何を身に付けさせてさせていかなければならないか、どうやってカリキュラムを編成するかが重要となる。プレゼンテーション力には、学習そのものの成果である「アウトプット」と、その「アウトプット」をする中で獲得できる成果である「アウトカム」がある。(図1参照)前者はシラバスによって目標設定がされるが、後者はルーブリックによって目標設定がされる。

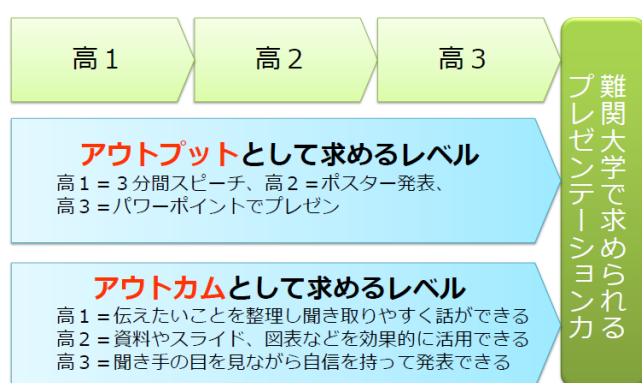


図1 プレゼンテーション力の到達目標の段階

研修の様子

(3) アクティブ・ラーニングとルーブリック

アクティブ・ラーニングは教科の知識・技能だけでなく、問題解決能力(思考力・判断力・表現力)や主体的な学習態度を身に付けるための学習方法で、それらの資質・能力を目標化し、評価する方法がルーブリックである。

「学校として生徒に身に付けさせる資質・能力」は、校訓や教育目標をベースとした「学校として身に付けさせたい資質・能力」と、学習指導要領などで規定された「一般的に育成すべき資質・能力」の2つの側面がある。ルーブリックはそれらの能力を具体的に定義したものである。

2 ルーブリックの基礎知識

(1) ルーブリックの種類

ルーブリックは次のように分類される。

① 全体的ルーブリックと分析的ルーブリック

- ・ 全体的ルーブリック…評価することを項目分けせずに全体的に捉えて文章化したもの。
- ・ 分析的ルーブリック…評価することを項目分けして、項目ごとに評価するもの。

② 長期的ルーブリックと課題ルーブリック

- ・ 長期的ルーブリック…3年間や6年間など、学校の入学から卒業までの長期的視点で項目を設定するもの。
- ・ 課題ルーブリック…学習する課題ごとに評価項目を設定するもの。

これら四象限に分類したものが図2である。

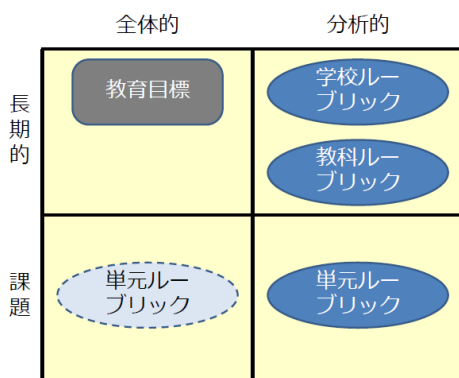


図2 ルーブリックの種類



松原先生の話

(2) 目的別のルーブリックのアプローチ

ルーブリックをどのような手順で作るかは、何の目的で作るかによって異なる。

評価が目的の場合…単元ルーブリックから作りはじめる。

作品をみながらボトムアップで作成することになる。

目標共有が目的の場合…学校ルーブリックから作りはじめる。

教育目標からトップダウンで作成することになる。

(3) ルーブリックを使った評価の方法

ルーブリックは目標として学習前に提示することで、何のためにその学習を行うかを明らかにする必要がある。ルーブリックを使った評価方法には次の2種類がある。

- ・ 形成的評価…学期や単元の途中で行う評価。

授業を通して学習者がどの程度理解したかを確認するための評価。

- ・ 総括的評価…学期や単元の最後に行う評価。

そしてその評価を評定に入れるか入れないかによってさらに異なる。

(4) ルーブリックの利点

ルーブリックを用いることは次のような利点がある。

- ・異なる人が評価しても同じ結果が得られる。
- ・ペーパーテストでは測定しにくい資質・能力（思考力・コミュニケーション力）を評価できる、
- ・身に付ける資質や能力＝学習目標を明確にできる。
- ・教員同士が学習目標を共有できる。
- ・生徒自身が何をどの程度努力すればよいのか分かる。
- ・生徒が自己評価・相互評価できる。

3 ルーブリックの作り方

(1) ルーブリック作成の手順

①学校ルーブリックの設定

- ・設定された教育目標に基づいて設定する。

②教科ルーブリックの項目を設定

- ・めざす生徒像などから資質・能力を著す「～力」・「～性」のような単語に分ける。
- ・教科ごとの学習指導要領で求められる力を分ける。
- ・両者を照らし合わせて評価項目の数を5～10程度に絞る。

③教科ルーブリックの基準を設定

- ・評価基準は具体的なスキルではなく、少し抽象度の高い汎用的表現で表す。
- ・S・A・B・C・Dという水準を設定する。
 - S…高校レベルを超えて特に秀でている
 - A…高校卒業時の到達目標
 - B…高校生の標準目標
 - C…高校生の最低目標
 - D…C評価に達していない
- ・評価基準は一貫性と質的变化があることが重要である。段階が上がる従って何か新しいことができるようになっているのが望ましい。

グループ活動

講義の内容を踏まえて教科ごとでルーブリック作成の疑似体験を行った。まず各教科（グループ）で1つ「〇〇力」「××する力」という項目を設定し、模造紙に書いた。続いて、その力を評価する際に、「こんなことができていると評価できる」という要素を考え、付箋に書きだした。次に、書き出した要素を評価基準のS～C（Cを最低基準・Aを到達目標とする）に合うように付箋の並べ替えを行った。その後要素を整理して、C～Sへ順に要素を積み上げていくように文章化することで評価基準を完成させた。

最後に作成した評価基準をいくつかのグループが代表して発表し、うまく出来たと思う点、苦勞した点、感想などを述べた。



グループ発表の様子

4 研修を終えて

本校では昨年度よりアクティブ・ラーニングについての研修を行っており、その中で評価基準のルーブリックの存在そのものは認知がされていた。しかしそれがなぜ必要なのか、どのような利点があるのかということまでは共有されておらず、さらに各教科とも、実際に作成するとなると何から始めればよいのか戸惑う場面も見られていた。しかし、今回の研修を通じてルーブリックの基礎的な点については共有を図ることができた。さらに今後本校の教育活動の中にも取り入れていきたいと思う。

作成に際しては、

- ・教育目標や教科ごとの目標と整合性を図る。
- ・求める力の項目を設定し、それを段階別に並べることで基準を作成する。

といったことを体験の中で理解することができたと思う。今回の研修を踏まえて、12月中には各教科でルーブリックを作成することになっている。